



# 路政春秋

## 書いて良いのか悪いのか

先日の東朝を一讀すると「溜飲さがると三斗」と言ひたい美談が掲載されて居つた、國體の明徴も皇道の表現も將又吏道の振痛も此處だなど感じた、書いてよいのか悪いのか、とにかく轉載して見よう、官僚獨善の聲喧しき折柄これはまた俠客はだしの任俠物語が浮び出て官吏界のため大いに氣を吐いてゐる。任俠物語の主人公は市町村の指導、吏道の刷新に新生面を開拓して縣民の喝采を得つつある時の人、學務部長北里善從氏で話は四年前に遡る。昭和八年北里氏は岐阜縣學務部長で縣教育界の刷新

社會事業に縦横の手腕を揮つてゐたが縣廳に出入する社會事業家の中に岐阜市大門町岸由太郎といふ人があつた。曾ては街の無頼漢として悪い事は何でもやらないものはないといふ男だつたが感ずるところがあつて罪滅しのため社會教化事業に乗出したのだつた、しかし先立つものは金である、一年たゞずしてこの運動は一大暗礁に乗上げ二ツチも三ツチも行かなくなつたのだつた、これを聞いたのが北里氏だつた、身は官職にあるとはいへ彼の血の中には熊本人特有の任俠が躍動してゐる。北里氏は岸氏を自宅に呼びつけると事業に必要な資金を支出することを約した、だが清廉の故を以て手許にはピタ一文ないころから市内濃飛農工

銀行に赴き買收豫定地たる同市大柳町の畑地六百坪と某女學校の寄宿舎を抵當に一萬二千圓を借受けその足で同金額をボンと投出したのだつた、岸氏は感激、その金を押戴き敷地と寄宿舎を買收し、そこに岐阜市輔仁會を設け、警察署や検事局の手におへない不良や失業者、世に入られない婦人等を收容授産を開始したが最近まで救はれた日蔭の人々は百餘名に上り現在三十餘名の老若男女が收容されてゐるといふ、北里氏はこれまでこの美談を秘してゐたが本年一月を以て負債一萬二千圓の元利も全部償却したので十六日銀行から抵當権抹消の通知があり某氏に漏し初めてこの美談が浮び出て來たもので北里氏は近く同氏名義になつ

**注 意**  
本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に渡らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯手に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

てゐる輔仁會敷地及び建物も全部寄附したといつてゐる。北里氏が一萬二千圓の負債を償還するまでの苦勞は並大抵ではなかつた一口に一萬二千圓といつても一定の收入以外に別途収入のない官吏のことゝて俸給全部を投げ出しても契約の返済期日まで完済することは困難だ、そこで北里氏は私生活を最少限度に切詰める共に同郷の先輩知己等に事情を話して義金を集め四ヶ年かかつて漸く全額を償還したのだつた。昭和九年正月物故した喜代子夫人もその負債については非常に頭を痛め夫君と力を協せて負債償還の捻出に努めてゐたとの事で常用の靴が縫合せて洋服の如きも色は腥せて古色蒼然としてゐるのもこの尊い義金の犠牲だといはれるに讀んでもらへるかも知れないのか。

## 降り來る雪を白くせ

よ

雪の純白な姿は獨りスキーヤーの讚辭を博するに止まらない、野山も市街も眞白く降り積む雪こそ好ましい限である。黒い雪が降つたらば人の心は一轉するであらうが雪を白くせよと叫ばざるを得ないのは何故か都市の煤煙がそれぢや白いものが思ふまに黒くなる。雨はふる／＼稀硫酸の雨がと前號にあつたが雪は降る／＼エチオピアの雪がと煙突林立は工費の地の姿であつて夫れは晝夜の別なく黒煙を滿天に漲らすのは重工業の旺盛を表現し國防上歓迎すべきであらうが、都市の衛生上の一大關心事である、煙突の高さ、炭質暖房設備の改善の如き容易ならざる問題である。都市問題としての煤煙驅除問題は重要視しなければならぬ問題である。

## 街の騒音の偉力？

都市生活者の神経を悩ます騒音は都會病源に如何に人々の聴器に障礙を與へて實

際問題として重要性を帯び來つたかが九州帝國大學醫學部耳鼻咽喉科講師河田政一博士の實驗によつて立證された。即ち同博士は過去數年間にわたり音響聽器障礙問題に關するあらゆる角度からの實驗をつゞけてゐたが職業性難聴の症例は年々激増の傾向にあるとはいへ、實際に於てそれら患者の病理組織學的研究などは困難なので動物實驗として音に敏感なモルモットの耳殻反射運動を利用し約百デシベルの強度をもつ騒音を一日に八時間づつ持續的に作用させたところ約百五十日を経過したものは殆んど全部が完全に耳殻運動を消失すること判明した、これらは内耳の中にあるコルチ氏器が崩潰し障礙を來すことが發見された。しかして騒音の種類としては「高い」ものすなはち振動数の多いものが有害であると判明した、例へば軋る音、鐵類を打ち合ふ音などが悪いわけで目下日に／＼熾んになりつつある重工業關係の工場にはこの種類の

曾が最も多くそれら工場の従業員たちは陸々に内耳をさいなまれつゝあるわけである。歐洲でも世界大戦當時軍需工業の隆盛に伴ひ耳の悪くなつた勞働者が激増したといはれてゐるから日本でも遠からずかゝる現象が著るしくなる危険性が多分にあり、國民體位向上運動の叫ばれてゐる折柄、河田博士の研究は一般に重大な警告を與へるものとして注目されてゐる、煤煙防止と共に騒音防止は都會病豫防の二大策と云ふべきである。

### 種々の由來記如夢か

櫻で名高い大阪造幣局は今から六十九年の昔、明治二年に現在の北區新川崎町淀川右岸に創設され造幣局から造幣寮さらに造幣局となつた、建物は明治六年十一月から起工し翌年の十一月に竣工、明治四年の六月十五日貨幣の鑄造を初めたが後十五年と四十年と大正七年の三回に擴張修理を施し

貨幣の鑄造、舊貨幣の鑄潰し、勳章、賞牌、記章、極印の製造、金銀地金の精製、品位證明、合金の製造、貴金屬製品の品位證明、鑛物の試験などを行つてゐる、造幣局の櫻今も昔の如く浪華人を引付けて居る。昔から浪速の八百八橋と稱せられておるが明治以前には八百は勿論見られなかつた、同十四年には區域擴張の結果千六百橋となり今では千二百三十三橋を算する歳と共に改造されて行くが橋名は新橋の格式、環境、附近の由緒などを調べて命名する、昔は一つ橋、二枚橋、三體橋、四ツ橋など數に因んだものや地名、國名、寺名、年號、七福神、魚類、動物、植物などの名稱もあつて橋の名の起原は千差萬別である。大阪粟おこしの由來は延喜の昔菅公が筑紫左遷のみきり、浪速の里、高津の落月寺に立寄られたとき浪花の民が「おこし米」といふお菓子をつゝめた、公はいたく喜ばれ櫻鉢紋の小袖を下されこの紋章を目印に廣く世に傳へよと

仰せられた其の後「おこし米」が「粟お菓子」となり夫れが「粟おこし」となつたのと。みづ／＼しい日本女性の誇となつて居る島田雷は建久の頃島田宿越場郡司の娘虎女が大磯に出て、白拍子となり曾我十郎と相思相愛の關係を結び十郎が仁田四郎の刃の露と消えて後は高麗山の麓に結庵した其時切り捨てた雷が島田の地名になぞらへて今に残つたと云ふ、一説には元祿の昔島田の宿場に白藤と呼ぶ白拍子があつてふとした折に二世を契つた若者の歸りを待ちわび遂に髪を切つて野田薬師の池に投身し浮世を去つたが其の雷を島田まげと稱し今に至つたものだとも傳へられておる、何にはともあれ濃艶な島田雷の由來談は右の如きものである。

### 生命の輕きは靱殼の

### 如きか

「死なう團」とか稱する奇怪な團體があつ

て街頭に躍り出て世間を騒がす日蓮宗信者がある。日蓮は地下で苦笑しておるであろう、所が世には安價な生命をもつておる者が少くないのである。彼の「猫いらす」「青酸加里」「カルモチン」などの毒薬利用は勿論、カミソリ、紐などの器物利用もある。所がソビエツトロシアに於ての他殺自殺人数を見ると一驚、二驚、三驚にも値する即ち最近の調査ではロシアの革命以來十九年間に總數實に四千萬餘人である。其の内の最も多數は勞働者農民の二千二百萬人餓死貧民千六百人強制勞働に因るもの三百人殺戮された兵士警察官等十萬人餘、中小學校教師四萬五千人、僧侶二千六百人が屠殺された、共產主義の理論はともかく人の生命を輕視すること如斯我國の社會國家の革新運動者は以て他山の石とすべきである。

## 某省の應接室に於ける一談話

某省の應接室に二人の面會人が數時間待たされて居つた、アクビと煙草で黙々として居つたがやがてAがBに向ひ「失禮ですがあなたは」B「ハイ私は某學校の校長であります、あなたは」A「私は社會事業を經營して居ります」B「この間の林内閣の政綱政策が發表されましたが丸でノリト式ですね」B「ソウデす祝詞を讀む様な感じで」B「タリと來ませんネ」A「イヤ實を申すと、私にはアノ字が難かしくてハツキリ内容が判りません」A「私も同様で特にデスネ漢字廢止とか制限とか云はれて居る時代では讀めないものが多いでしょう」B「お互にどうも情けない次第ですナ、何んとかもつと全體の國民に分り易い様に……昨年二月二十九日のアノ『兵に告ぐ』といふ風な工合に書けないものでしょうか」A「御同感ですがしかしデス政治の事は軍隊内の様に單純に行きますまい、尾崎行雄氏の演説を讀むと軍人式では世の中は行き難いことがハツキ

リと判りました」B「ソウデスネどうしても簡潔に要所要所を判り易い様にして誰にも徹底的にわからすのが一番ですネ」A「昨朝日に尾崎氏の演説速記録が一部五錢で印刷局から街頭に賣り出されたのにはチト意外でしたネ」折りしも給仕が來て「次官に御面會の方はどうぞ」B「ソレでは失禮しました」A「ドウも失禮しました」

## BK放送の一美譚耳

### ある者は聴くべし

文政の昔時に隠れたる農村義人の一美談の主人公鈴木七右衛門重秋の事績である。重秋は八十九歳の長壽を保ち文政の十年十一月十一日病歿したが同人は源義經の忠臣鈴木三郎重家の後裔で西牟婁郡三舞村大字安居に移り代々百姓をしてゐたが日置川は水量多く碧水をたゞへてゐながら守山、安居の村のあたりは河水面よりも田面が數メートルも高いから澆溉水を引き入れること

が出来ない、そのため早魃稻田の龜裂稻の枯死水争ひから流血の慘、飢饉村人の離散等々悲惨な運命の村を憂へて救民救世の大勇猛心を起した七右衛門翁は向平、神宮寺間の河曲部の水の落差に着眼し曲流部の頸部にトンネルを鑿つて水を引き入れようと大膽なる企てをたて寛政九年から文化元年にいたる八ヶ年を費し私財を盡して苦心慘愴世の嘲笑と惡口と戦ひつゝ長五百メートル幅高さ各一メートル二のトンネル貫通に成功、さらに長さ三キロ、深さ一メートル半幅一メートルの堅磐を穿ち灌漑溝を掘つて給水トンネル内を流れる灌漑水は滾々として盡きざるとく翁の恩恵は永久に輝き百三十年後の今日にいたるまで關係地はすつかり水飢饉から救はれたといふのである。ロチらはデエー、オー、ビー、ケーであります。

金なくて何の己れが

歌人武者小路公共駐獨大使は歌ふて曰く  
 頼りなき人の言の葉眞にうけて待ちつゝ  
 暮らす今日にはあらずと寔に同感である、何事も宣傳や約束では頼み甲斐がない前獨逸皇帝カイゼルは國際條約は一片の反古紙であると豪語してアノ世界大戰を惹起した、其の結果は慘愴たる戰敗國の苦杯をなめざるを得なくなつた、ヒットラーが奮然として立ちあがつたのも之れが爲めである。極東日本の國體にあやからんとしてナチス運動を起し獨裁政治を強化して國力回復の策に生命を打ち込んで居る、だが我日本に於ては敢てヒットラーに追隨するを要しない、寧ろ窮民及失業者を徹底的に救済し國民生活の安定策として全國民をして此内閣ならではとの信頼心を起さしめることは割切な政治である、夫れにつけても金なくて何を己れが爲し得るか、うらやましきは社會的に惜みなく淨財を投げ出す人である、最近英國の自動車王ナツフィールド卿

は農村救済の爲めに二百萬ポンドの巨資をボンと投げ出しただが之れより先き母校オックスフォードにも二百萬ポンドを寄附したことがある、從來ナ卿が各種公共事業への寄附金は總額實に七百五十萬ポンドに達すると傳へられて居る、儲けた金を再び社會國民の爲めに還元することは實にうるわしき行爲である。

昔を偲ぶ記碑念

宮崎市が自慢のモダン橋大湍橋の附近はその昔「小戸の渡」といはれ、その絶景とともに種々和歌にも詠れたものであるが、市史蹟顯彰會ではこの小戸の渡址を永久に記念するため、現在の橋橋北詰西側のところに伊東三位入道義祐がよんだ「神代よりその名も今はたちばなや小戸の渡しの舟の行く末」といふ歌を刻んだ碑を建てることになつた。

× × × × ×